

市指定民俗文化財

まんぞういんだい こうしんとう 万蔵院台の庚申塔



庚申信仰は「庚申の晩に眠ると、身中の三尸の虫が昇天して天帝にその人の過失を告げる」という中国の信仰と、日本の日待ち、月待ちの信仰が融合したものと考えられています。江戸時代に庶民の間に浸透し、庚申の晩に人々が集まり、眠らずに一晚を過ごす庚申講が行われた。この講を何度か行った節目に建てたのが庚申塔で、人々の祈願の対象にもなっていました。

万蔵院台の庚申塔は、宝永7年(1710)に、当時この地の領主であった小林正利が建立した一基と、この地の住民が元文3年(1738、文化2年再建)と明和6年(1769)に建立した二基、建立年代は不明ですが昭和52年に再建された一基があります。このうち宝永七年のものは、近年まで節分の豆撒きや、初午に供物を供えるなどの行事が行われていました。

これらの庚申塔は領主と住民が建立したものが一体に祀られ、両者の関係を示す好資料となっています。また近年まで信仰行事を伴っており、民間信仰を理解する上で重要です。

所在地 百草 1072 所有者 日野市

平成 21 年 9 月 17 日指定

(見学希望の際には、事前にお問い合わせください。)